

ハンドリベッターの基本

用途

ブラインドリベットを用いてリベット締めを行う手動式の締結工具です。ブラインドリベットとは片側から一行程の作業により、薄板(0.5~25mm程度)の締結ができるリベットです。一般家庭の工作物から、航空機の組立てに至るまで、幅広く使われております。

特徴

~ブラインドリベットの特徴~

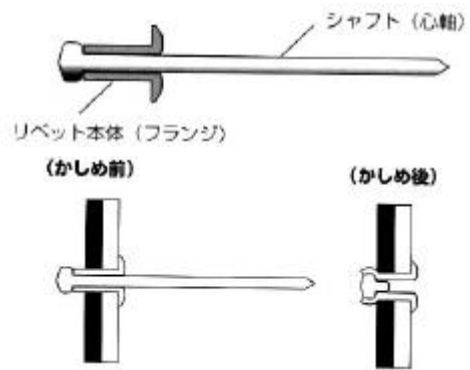
ブラインドリベットはリベット本体(フランジ)とシャフト(心軸)の部品で構成されています。

一般のリベットやボルトナットにより締結では片側からリベットまたはボルトを差し込み、もう一方の側にてリベットをかしめたり、ナットにて取り付ける作業が必要です。

すなわち、両側からの作業が必要ですが、ブラインドリベットでは片側からの作業のみで簡単に締結することができます。

ブラインドリベットの材質は、アルミニウム、鉄、ステンレス、銅などです。

ブラインドリベット



種類

ハンドリベッターは、片手式横形、片手式立て形、両手式立て形に分類できます。

片手式では、ブラインドリベットの2.4、3.2、4.0、4.8の4サイズのリベット締めができ、両手式ではさらに6.4のリベット締めできます。

一般には、片手式立て形は、横形では作業のしにくい場所、例えば上向きの作業や奥行きが深い所へのリベット締めなどに使います。

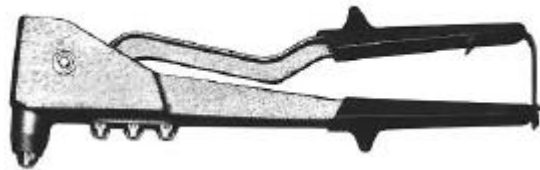
●両手式立て形

(これはモデル写真です。)



●片手式横形

(これはモデル写真です。)

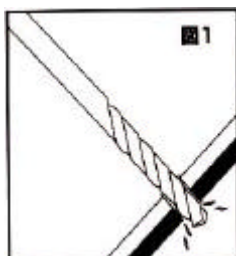


●片手式立て形

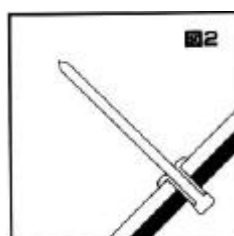
(これはモデル写真です。)



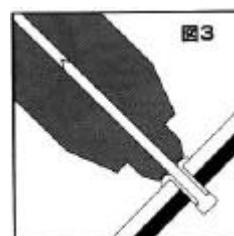
<使い方>



母材にリベット径より毛0.1~0.2mm大きい下穴を開けます。



母材下穴にリベットを差し込みます。



リベットのシャフトにリベッターを差し込みます。

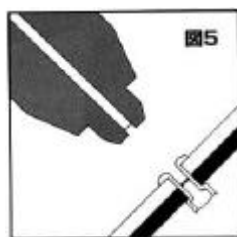


母材に、リベットのフランジ部が密着した状態でリベッターのハンドルを閉じることによりリベットがかかります。



ハンドルを閉じることでシャフトがつかまりやすくなります。

リベットサイズや母材の厚み等により 1回のハンドル操作でリベットが切断されないことがあります。切断されるまでハンドル操作を行ってください。



リベットが切断されましたら、ハンドルを開き、切断されたリベットのシャフトを排出します。

<使い方の注意>

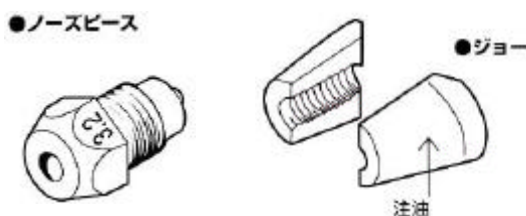
必ず、使用するリベットと同サイズのノースピースを使ってください。

ノースピースの穴径は、ブラインドリベットのシャフト径よりも0.3～0.5mm大きくなっています。ブラインドリベットの種類により 1サイズ下のノースピースにも、ブラインドリベットのシャフトが入る場合があります。(例えばリベットサイズが4.8であるのに、ノースピースは4.0を使用)

このように誤って使用すると、リベット切断後、シャフトが排出されないで、内部に詰まってしまう場合があります。

必ずシャフトの排出を確認してから次のリベット締めを行ってください。

日常の手入れとして、ジョー部(リベットのシャフトをつかむ部分)の掃除と背部への注油が必要です。



！警告！

作業時は保護めがねを着用してください。切断されたリベットのシャフトが飛び出し、障害を及ぼす危険があります。

！注意！

1. ハンドル部で手等を挟まないよう注意してください。
2. ハンマ等で叩いて衝撃を加えないでください。
3. パイプ等を継ぎ足して使用しないでください。